

病院敷地内を全面禁煙に



4月から

受動喫煙根絶へ

阪大病院は今年4月から敷地内全面禁煙とすることにしました。これまで敷地内に喫煙場所を設け、分煙を行っていましたが、喫煙者だけでなく、たばこを吸わない人がたばこから出る煙(副流煙)を吸うことによる健康被害も明らかであり、すべての方の受動喫煙を防ぐため病院敷地内からたばこの煙を一掃することにしました。



たばこの煙には400種類以上の化学物質が含まれており、有害な成分が200種を超え、そのうち発がん性が指摘されている物質が60種類もあります。肺がんだけでなくほとんどのがんの最大の原因であり、呼吸器や循環器の病気や糖尿病などの生活習慣病、歯周病など多くの病気のリスクを高めることがわかっています。また、がんや心臓病による死亡率を上昇させ、流産や低体重児出産が増えることも明らかになっています。さらに、喫煙者が吸うたばこの煙(主流煙)より副流煙の方が有害であることが指摘されています。

健康増進法が2003年5月に施行され、公共施設や飲食店での分煙が努力義務とされました。阪大病院でも建物内は禁煙とし、建物の外の指定された場所ではたばこを吸えないようにしてきました。各地の自治体で歩行喫煙の禁止条例が制定され、大阪府も受動喫煙防止条例制定に向けて積極的に取り組んでいます。



喫煙マナーパトロール

敷地内全面禁煙実施に向けて昨年8月30日、その結果、喫煙指定外の場所での喫煙者がいることを確認しました。喫煙指定外での喫煙者ももともと多かったのはホスピタルパークの出入口付近とパーク内22件、次いで医学部研究棟と病院の間の休憩所の7件、モノレール駅前のバス停、外来駐車場付近の各4件でした。喫煙していた人は58人で、喫煙者に対して、禁煙を呼びかけるイエローカードを渡しました。9月15日、10月17日、11月15日、11月17日、11月29日までの毎週、月、水、金曜日の3日間の午後2時、医師、看護師、医療技術職員、事務職員の4人1チームで、延べ31日、計62回に及ぶ喫煙マナーパトロールを行いました。

また、4月からの全面禁煙を知らせる看板を正面玄関など5カ所、掲示物をエレベーター内に掲示し、8月5日

には患者さんと職員を対象に「禁煙教室」を開催しました。これからの取り組みとしては、医師や看護師、職員に対して喫煙に対する意識を改革してもらおうためのフォーラムの開催を予定しています。また、敷地内全面禁煙を周知徹底するためにホームページや広報誌で取り組みを紹介したり、敷地内全面禁煙を知らせる看板を設置しました。

福澤正洋院長は「たばこが健康に悪いことは明らかです。病気を治すために入院している患者さんだけでなく、患者家族、お見舞いに来られた方、病院で働く職員の健康を守るためにも敷地内全面禁煙は不可欠です。阪大病院には禁煙外来もあり

は明らかです。病気を治すために入院している患者さんだけでなく、患者家族、お見舞いに来られた方、病院で働く職員の健康を守るためにも敷地内全面禁煙は不可欠です。阪大病院には禁煙外来もあり

ますので、たばこをやめたい入院患者さんやご家族は受診していただければと思います。また、職員に対しては禁煙を徹底するように厳しく指導していきたいと考えています」と話しています。

患者と共に歩む看護の実践 高度先進医療を支える

看護部

看護部は、看護部長を頂点に、副看護部長、看護部長、副看護部長、看護師、助産師、看護助手を合わせた総勢949名(平成22年4月1日現在)の大部隊です。病棟、外来、中央診療施設と大きく3つに分かれ、看護部の理念・基本方針のもと、看護師は患者さん

患者さんに接しています。看護師・助産師の仕事ぶりは、よく知られていますが、全体がどのような仕事をしているのかはあまり知られていません。今回、部門や看護単位の枠を超えてセンター化した、ハートセンター、小児医療センター、オンコロジーセンターの看護を紹介いたします。

- 看護部の理念●
高度先進医療に対応した安全で共
高質の高い看護を提供すると共に
豊かな人間性と高度な教育
識・技術を持った専門職者の育
成と看護の発展に寄与する。
- 看護基本方針●
◇患者の権利を尊重し、
患者と共に歩む看護の実践
◇患者を全人的に捉え、
心のももったあたたかみのある
適切なケアの提供
◇優れた専門職者育成による
社会・地域医療への貢献
◇看護の質向上と業務改善に繋がる
臨床看護研究の推進

看護師の教育・指導体制の強化を図っています。集中ケア認定看護師が中心となり教育プログラムを組み、医師、臨床工学技士、移植・治療コーディネーターの方々にも協力を得て、勉強会を開催しています。急変を想定したシミュレーションも定期的に行い万全を期しています。

一方、慢性期の患者さんのケアも重要です。心臓移植を受けるまでの間、補助人工心臓を装着して数年待つという方も少なくありません。心のケアを必要とされる場合もあり、臨床心理士とのサポート体制を組んでいます。ハートセンターの看護

ハートセンター

病棟9階の東側にハートセンターが開設され、約4年が経過しようとしています。2年前に併設された心臓リハビリテーション室では、専任の理学療法士と看護師が配属され、循環器疾患患者さんに最適

なリハビリを行っています。今では、入院精査、治療、リハビリと一貫したケアを提供することが出来るセンターとなりました。患者さんをトータルにケアできるように、

急病センターからの二次後送病床としての役割も果たしています。センター内は、「こどもの森」と名付けられたようにライオン、キリン、パンダなどの森の動物が廊下の壁に描かれています。まるでアドベンチャーラン

小児医療センター

新生児から小児医療を行う小児医療センターは発足して3年を迎えようとしています。小児科、外科系病床が87床あり、豊能広域こども急病センターからの二次後送病床としての役割も果たしています。センター内は、「こどもの森」と名付けられたようにライオン、キリン、パンダなどの森の動物が廊下の壁に描かれています。まるでアドベンチャーラン

オンコロジーセンター

オンコロジーセンターには、がん医療に関連した放射線治療部門、化学療法部門、緩和ケアチーム、がん相談支援室があり、各部門ではチーム医療が実践されています。集学的治療が必要ながん医療の現場では、一人の患者さんがオンコロジーセンターの複数の部門で医療を受けられることも多く、各部門間の連携が不可欠です。看護師は自分が所属する部門の専門性を持ち、日々のケアを行っています。いずれの看護師も、がんの集学的治療を理解し、部門に必要とされる情報交換



看護師は、看護部長を頂点に、副看護部長、看護部長、副看護部長、看護師、助産師、看護助手を合わせた総勢949名(平成22年4月1日現在)の大部隊です。病棟、外来、中央診療施設と大きく3つに分かれ、看護部の理念・基本方針のもと、看護師は患者さん

看護師の教育・指導体制の強化を図っています。集中ケア認定看護師が中心となり教育プログラムを組み、医師、臨床工学技士、移植・治療コーディネーターの方々にも協力を得て、勉強会を開催しています。急変を想定したシミュレーションも定期的に行い万全を期しています。

一方、慢性期の患者さんのケアも重要です。心臓移植を受けるまでの間、補助人工心臓を装着して数年待つという方も少なくありません。心のケアを必要とされる場合もあり、臨床心理士とのサポート体制を組んでいます。ハートセンターの看護

急病センターからの二次後送病床としての役割も果たしています。センター内は、「こどもの森」と名付けられたようにライオン、キリン、パンダなどの森の動物が廊下の壁に描かれています。まるでアドベンチャーラン



クリスマスのサンタクロース回診

のも、循環管理、呼吸管理、点滴管理、栄養管理を行い、子どもの心身の反応を24時間観察しています。また治療、看護ケアを多く必要とする子どもに対しては、特に変化をよく見て医師に報告し、診療科を越え、医師と協働して看護にあたっています。

日本の心不全治療をリード



循環器内科

心不全チームの合同カンファレンス

阪大病院の循環器内科は重症の心不全患者さんの治療においては日本でもトップクラスです。昨年からは小室一成教授の体制となり心不全の診断、治療の臨床、研究により一層、力を入れるため

「心不全チーム」を発足させました。心臓病の内科的な治療はカテーテルによる治療が進歩し、心筋梗塞や不整脈などは入院して治療をすれば元気に退院できるようになってきています。しかし、心不全に関しては、大動脈弁狭窄など原因がわかっていれば外科と連携して治療ができるのですが、原因のわからない心筋症のように心臓移植しか治療法がない場合もあります。

生医療の開発にも力を入れていきます。小室科長は「循環器内科が日本の重症心不全患者さんの最後の砦となるように、臨床、研究に励んでいきます」と話しています。

阪大病院は高度先進医療を担う病院として専門性が求められ、検査、放射線、臨床工学、リハビリの各部門でもそれぞれの学会などにおける専門的な資格を取得することが病院の医療に貢献することになります。医療技術部は資格や学位の取得をサポートしています。

診断や治療を陰で支える



検査時の患者さんの体の扱い方を理学療法士から学ぶ講習会

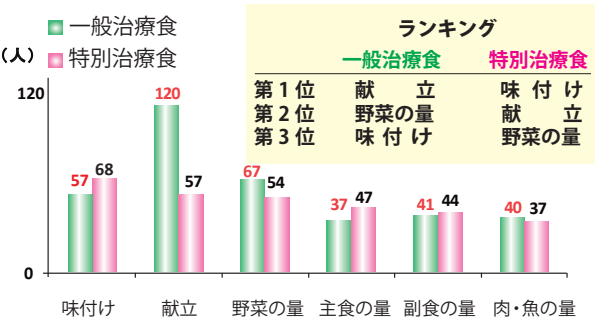
医療技術部

阪大病院の医療技術部は診断や治療をバックアップする検査部門、放射線部門、臨床工学部門とリハビリ部門を

統括し、各構成員のスキルアップを支援、医療の質の向上と安全の確保に力を入れています。

病院食のここを参考にしたい!

病院食で何を参考にしようと思いますか? (複数回答可)



栄養マネジメント部がアンケート

栄養マネジメント部では、入院患者さんを対象に食事に関するアンケート調査を実施しました(回収率 一般治療食58%、特別治療食77%)。「治療・疾病回復を円りつつ、家庭での生活と食事療法の参考になれば」との思いを込めた病院食の満足度「普通以上」は約80%と高評価をいただいています。

病院食は治療の一環であると思う方90%以上、退院後も参考にしたいと思う方70%以上で、この思いは、患者さんに届いていると思われまます。そして、安

12月10日、阪神タイガースの平野、筒井両選手が小児医療センターを訪れ、入院中の子どもたちと楽しく遊び、励ましました。

ふれあいゲームで玉入れを楽しんだ後、質問コーナーでは子どもたちからいろいろな楽しい質問が飛び出し、デイルームに笑い声がこだましました。

その後、病室から出られない子どもの病室も訪れ、サイン入りの帽子を渡したり、写真を撮ったりして楽しい時間をプレゼントしていただきました。



阪神タイガース 平野選手、筒井選手 小児医療センターを訪問

クリスマスムードあふれたコンサート

恒例のクリスマスコンサートが12月21日、外来エントランスホールで開催されました。第1部では、茨木市立西陵中学校PTAのOBで構成された「ひこうき雲」によるトーンチャイム演奏が披露されました。トーンチャイムの優しい音色で「赤鼻のトナカイ」などのクリスマス定番曲が演奏されました。第2部では、ソプラノ歌手であるナターリア・コズローヴァさんからウクライナ民謡やクリスマスソングを披露していただきました。美しい歌声でホールが包まれ、患者さんに少し早いクリスマスを満喫していただきました。



「世界エイズデー」で啓蒙活動

世界エイズデーである12月1日の午前外来エントランスホールにおいて、エイズ・HIV感染症に関する啓蒙活動を実施しました。

エイズに対する正しい理解と支援の取り組みを表すレッドリボンを職員やボランティアの手で4000本以上作成し、当日は病院に訪れた患者さんに手渡すとともに、教職員は胸にリボンをつけて業務にあたるなど、エイズ・HIV感染症を正しく理解していただくための活動を展開しました。



大規模災害医療訓練の講習会開く

阪大病院は大阪府の災害拠点病院であり、阪神淡路大震災やJR福知山線脱線事故では多数の重篤な傷病者を受け入れて救命しました。災害時に適切な医療を提供するために普段からの訓練は不可欠です。阪大病院では毎年訓練を実施しており、災害訓練に向けた講習会を12月7日に開催しました。今回は、溝端康光・大阪市立大学教授を講師に、どのようにすれば機能的に傷病者を受け入れることができるかをテーマに研修しました。

病院機能評価受審終了の報告と協力御礼

阪大病院では昨年の11月8~10日の3日間、患者さんがより適切で質の高い医療を安心して受けられるよう、病院の機能を専門的、学術的、中立的な立場から評価する「病院機能評価」を5年ぶりに受審しました。期間中は、職員を含む数名のグループが院内を巡回し患者の皆さんに大変ご迷惑をおかけしたことをお詫言しますが、この趣旨をご理解いただき、ご協力いただきましたことに感謝いたします。

市民公開フォーラム参加者募集

大阪大学医学部附属病院 市民公開フォーラム
《小児がん：生活の質の向上に取り組む》

- 日時 3月26日(土) 午後1時~4時
- 場所 大阪大学医学部講義棟 A講堂
- 定員 240名 参加無料(先着順)
- 講演内容
 - 1 小児がん治療の現状と課題
大阪大学医学部附属病院小児科 医師 太田秀明
 - 2 小児がん患者の心のケア
大阪大学医学部附属病院こころのケアチーム
臨床心理士 吉津紀久子
 - 3 院内学級の役割
大阪府立刀根山支援学校阪大病院分教室
教諭 九後充子
 - 4 チャイルド・ライフ・スペシャリストの活動について
大阪大学医学部附属病院小児医療センター
チャイルド・ライフ・スペシャリスト 馬戸史子

- 申し込み方法 FAX、メールまたは、はがきで必要事項(氏名、住所、連絡先、参加人数(4名まで可))をご記入のうえ、3月18日(金)までに、下記によりお申し込みください。
- ・FAX 06-6879-5019
- ・メール ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp
- ・はがき送付先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15
大阪大学医学部附属病院総務課
広報評価係内市民公開フォーラム係
大阪大学医学部附属病院総務課
広報評価係
TEL: 06-6879-5020、5021

※車でのご来場はご遠慮ください

ホスピタリティ